



# 現童通信

2022  
No. 59  
令和4年11月10日発行  
現代童画会

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-5-10-402 ライオンズマンション本郷 電話 03-3816-5281 <http://www.gendoh.jp>

## ごあいさつ

現代童画会会長 小澤清人

我が現代童画会も早や、第48回展を開催する運びとなりました。

1976年13人の“童心”をもった“絵描き”が集まり、我が会を創りました。半世紀近く活動した結果、現在の現代童画会が存在している事を思いますと、発足当時の先生方の苦心努力などいろいろな事が思われます。私は、はじめ日展系に所属した洋画家として、自負しておりましたが、“私の思い”は、アカデミーの環境では全く理解されず、“あなたの絵は、イラストっぽいですね！”とよく言われたものです。そのたびに何か不快な思いになった様に思います。今思うとこれは、時代の流れと感じております。1970年代イラストレーターが台頭してきて、私にとって画家との境が定かなくなり思い悩みました。又、今、時代の流れか？

マンガ、アニメ、コンピューターグラフィックスなどが台頭してきております。

我が現代童画会は、先人達が、画家、絵本作家、デザイナーなど三位一体で美術団体に挑む形で立ち上げたのですが、未来に向かって変わりゆく時代を歩んでいくのか？ 今、新しい表現を持った若い力が台頭してきております。我が会にとって第2の躍進の時と思われるこれからの未来に向かっての光明が感じられます。力強く前進していきける美術団体としてこれからも成長していきたいと思っております。

未来に向かって、新しいスタイルを選ぶのも我々の判断によるのだと思うと、とても責任を感じ、我々に与えられた最大の課題であると思うのです。

2022年11月



2022年 春季展会場



2022年 選抜展会場



第47回現代童画展会場風景

# 超我—今を、生きる

美術評論家 中野 中

——作家は処女作に向かって成熟する、という。つまり、処女作にはその作家にとって永遠のテーマが包蔵されているということだ。その永遠に向かって回帰する道程で、矢尽き刀折れ野垂れ死にするというのが、およそ作家の名に値する者の宿命だといっている。悪戦苦闘の結果、よしんば才能は開花しても、人間が大きくならなければ真の芸術家たり得ない。(以下、略)

——美術、ことにタブロー表現にとって難しい時代が続いている。発想・テーマ性・技術を深め磨き、精一杯研鑽を積みながらも、明日への光明が容易には見えてこない今日の状況を突き破るには何が必要か。いろいろ言われる中で、その一つに〈志〉を挙げたい。ここに集う六人にはその〈志〉がある。

——なぜ〈超我〉なのか。

画家は所詮、孤(・)である。絵を描くことは、孤独な営為である。頼みは己しかない。わずかな才能に大きな努力をバネにして、常にみずからの脱皮をはかり続けるしかない。

日々、古い皮質を脱ぎ捨て、未知の明日を己のものにする。それは自分が自分を超える、たった一人の反乱なのかもしれない。

〈超我〉こそ、明日を獲得する術(すべ)なのだ。

およそ20年前に、30、40代の若手作家6名のグループ企画展を年1回のペースではじめた。第1回展から3回展の案内状に寄せたコメントである。

展覧会名は〈超我—Being NOW〉である。

80歳を目前にあらためて読むと、何といい気であったことか。当時の私はコンプレックスをエネルギーに、から元気と見栄と無謀を杖に、勝手放題に宣(のたま)わっていたものだ。

グループの面々への叱咤激励のつもりであったが、それはそのまま自分に向かってのものであり、というのも体裁の良い言い状で、実は自己弁明であったようだ。

〈超我—……〉展は、ことし16回展を終え、折々

にメンバーを2、3名入れ替えながら続けてきた。現在は7名構成で来春17回展を開く。3名の交替で新しい構成がどんな刺激を互いに発信・享受してくれるか、それが企画者の楽しみであり、喜びともなる。

私はいま、月1本ペースで企画展をやっている。モチーフを例えば〈人間〉に限ったり、抽象画のみにしたり、あるいは写真・具象・抽象の混交に、等々。参加者は5、6名から10名前後で、50号から100号の大作をベース。そして同じ団体所属を重複させない、を基調にしている。

加えて、メンバーは5年毎に見直しをし、数名の入れ替えをはかる。その折に退会(私は卒業生という)したそれぞれが、本土俵の公募展あるいは新たな舞台を得て、更なる発展・活躍を促し、願っている。

最後に〈超我—……〉展のことしのコメント〈今を、生きる〉を転載させていただく。

——作品に惹きつけられるのは、描き手の内なる軌跡(陰翳)が見え、感得されるときだ。

それは又、個々のアイデンティティによって惹きされるものであろう。アイデンティティとは、いまこの瞬間の自己が、過去における自己との連続性によって構成される。つまり、個の人生が如何に在り、その生の道程の陰翳に宿るものであろう。

そこに生まれる独自の視点こそが問われることになる。

今を生きる証、として。——



# 本部展覧会報告

## ■春季展とは

春季展とは、東京・銀座の画廊で我所属作家のみで開催され、毎年4月初旬に8号以下のサイズという規定の中で開催される現代童画会にとって新たな1年のスタートを切る公募展スタイルの本展とは趣の違う展覧会です。

新会友に推挙された皆さん！おめでとうございます。来年から春季展への出品資格ができました。新会員に推挙された皆さん！おめでとうございます。来年から春季展に出品し、審査の上選抜されれば、8月に開催される選抜展（銀座から香川・関西への巡回展）への出品も可能になります。東京近郊以外の方に作品を観てもらえるチャンスです。毎年2月中旬ごろに出品要請の資料がお手元に届きます。

新会友・新会員の皆さんはもちろんのこと、現会友・会員の方々も是非とも出品参加して、会を盛り上げてください。

今すぐ年間タイムスケジュールに組み込んでおいてください。皆さんの参加により、素晴らしい展覧会になるようお願いながらお待ちしております

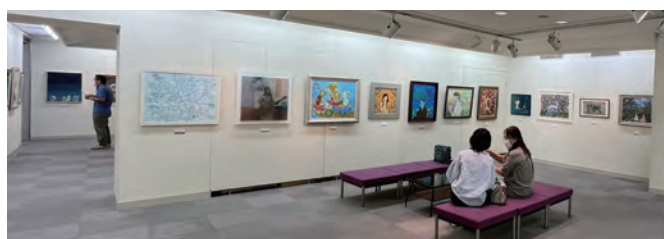
展覧会局 綱島 裕



## ■選抜展

選抜展は8月22日から28日銀座アートホールでコロナ感染対策をし、常任委員委員39名会員58名計97名の開催でした、今回は皆さんの作品全体に20号サイズが多くよせられ迫力の有る展示になりました。コロナ禍で多少来客が少なく残念でしたが、まずまずの開催と思います。

展覧会局 桑井 利美



## ●現童セミナーからのお知らせ●

現代童画会では、東京近郊在住の出品・応募希望者を対象に、作品勉強会や画材研究会などを開いています。現代童画会を知る窓口として、作品の研鑽の場として積極的にご活用ください。

又、研究成果発表のために、毎年セミナー展を開催しています。

### ★本年度の活動報告

- (4月下旬) セミナー展出品要項発送
- (6月25日) セミナー勉強会 / セミナー展に向けて文京シビックセンターで、15名参加セミナー展案内状発送
- (7月) 第28回セミナー展開催 大崎 MGG にて 7/25月～7/30土 78名の参加
- (11月) 本展でセミナー勉強会(講評会) 予定  
今年のセミナー展では、まだコロナの影響で懇親会を出来ませんでした。来年こそ従来の形で開催出来、セミナー会員相互の親睦を深めたいものです

### ★2023年度活動予定

- (4月) 現童セミナー展出品要項発送予定
- (6月) セミナー勉強会・案内状発送
- (7月) セミナー展開催予定 日程は未定(秋)セミナー勉強会(本展に向けて)
- (11月) 本展にて、セミナー勉強会(講評会)

セミナー年会費 5,000円

☆お問い合わせ・参加申し込みは下記まで…

〒222-0035 横浜市港北区鳥山町 1250 - 15 中村景児  
TEL.045(476) 0927 FAX.045(476) 0928  
メール yokobaba70@outlook.com





## ■関西展

8月に銀座アートホールで開催された選抜展は、巡回展となり、坂出市民美術館での香川展(10月)終了後、12月に神戸市で『現代童画会'22関西展』として展示させていただきます。自分の中の物語を見つめ表現された最大20号までの97作品が、静かに語りかけるように、明るく歌いかけるように、鑑賞者の柔軟な感性に響いてくる展覧会です。作家の手を感じることができる実作品をこの機会にぜひご高覧下さいますようお願い申し上げます。

12月14日(水)～18日(日) 10時～18時(入場17時30分)  
最終日15時(入場2時30分)迄 兵庫県立美術館王子分館 原田の森ギャラリー-本館1階展示室

常任委員 鳥垣英子

## ■四国香川展

四国香川展は坂出市民美術館で10月8日から10月23日まで前年より短縮されての開催です。

選抜展会員58名の作品から審査の結果25名が四国香川展選抜として選ばれ、委員以上39名、計64名の展示になります。今回は作品も大きく以前の開催に比べ多少展示点数が多くなり審査も大変苦労したと思います。関西展は全員の展示になります。三年ぶりに10月8日の坂出市民美術館ジュニア展表彰式に出

席、コロナ禍の為各賞ごとに時間を分けての開催になります、喜んでいる子供達家族の方々の顔が浮かんできます。展表彰式前日7日きんかこども園にて園児25~27人と糸井先生の提案ペットボトルジョーロを作ろうのワークショップ開催です。いつも園児のエネルギーに巻き込まれ、元気をもらっています。

展覧会局 桑井利美



## 支部・地区会の案内

### ●関西支部

鳥垣英子

2022年の選抜展97作品による『現代童画会'22関西展』との併催という形で、同会場にて『関西支部展』を毎年開催しています。支部展では『第48回現代童画展』（東京都美術館／11月開催）に出品した作品を中心に展示致します。関西支部メンバー各々のチャレンジ作品も含め、私たち個々の物語・情感あふれる作品を神戸の会場でお楽しみいただけましたら幸いです。メンバー一同、準備を整えお待ち申し上げます。

12月14日(水)～18日(日) 10時～18時(入場17時30分) 最終日15時(入場2時30分) 迄  
兵庫県立美術館王子分館 原田の森ギャラリー本館1階展示室



### ●福井地区

岩佐れい子

令和4年4月12日～4月17日に鯖江市まなべの館にて第14回現代童画会福井地区展を開催しました。会員6名、一般24名、学生3名、遺作1名、出品数49点、入場者数952人となりました。コロナが蔓延する中、明るく、楽しく、祈りを込めた作品が、訪れた方々の心に残り、癒しの空間が広がっていたように感じました。

### ●中部地区

大塚たか子

2022年9月8日(木)～13日(火) 会場 5/R Hall&Gallery

本年度15回展も新しい作家を迎え、洋画・日本画・切り絵・イラストレーションなど様々な分野からの作品が展示されました。

《出品作家》

安藤シオン 打樋佐和子 和泉景子 植田 浩 大竹美幸 大塚たか子 苅部美恵 久米幹晴 小島千明 坂崎友里乃 さとうちえこ 藤島 愛 長谷川純 松本みさこ

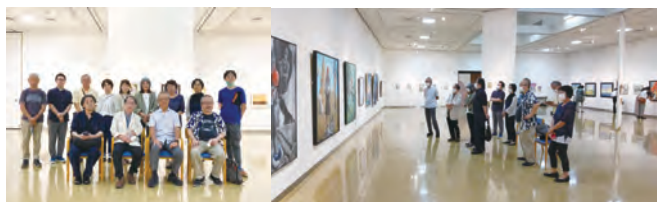
中日新聞朝刊に掲載されたり、案内葉書を見たり、多くの方がご来場になり盛大に終わりました。



### ●かぬま地区

津吹貴子

9月16日から18日まで第22回現代童画かぬま地区会展が開かれました。21回はコロナで中止、メンバーの士気の低下が心配でしたが会場は絵とメンバーの情熱で輝いてました。ある会の方が「良い会になったねえ、自分達の童画はこれなんだと納得させる絵を皆が描いてるよ」と言ってくれました。「童画とはどういう意味ですか？」とよく聞かれますが童画は我々が作り上げていく物だと思いました。今回は東京本展46回47回でかぬま賞を取ったお二人にも参加していただき感謝、そしてご指導くださる先生方にも感謝感謝です。これからも宜しくお願いします





## 現代童画会の作家を訪ねて

62

# 佐藤美絵 「キリエイラストレーター」

第47回現代童画展・受賞作家展の飾り付け時に会場を担当委員の佐藤美絵さんにお話を聞くことが出来ました。

糸井: 中々、取材する時間がなくて、この飾り付けで忙しい中、受けていただけて感謝です。まず、生い立ちから？

佐藤: 1月3日正月生まれで、川崎生まれ川崎育ち今でも在住です。

中学生の頃に、デザインとかイラストという世界があることを知り、美術が好きになりました。普通高校へ進学し、美術部と天文学部に所属して進路は女子美術短期大学のグラフィックデザイン科教室へ進学し、専攻科修了までやりました。さらに学芸員の資格が欲しいと思い放送大学へ入ったのです。しかし国の基準が変わって単位不足でその資格は取れませんでした。が教養学部の大学卒業はできました。

糸井: その間、会社に入ったりしたのですね。

佐藤: 七宝焼きの会社のデザインに一年ぐらいいました。その後しばらくは、ギャラリーでバイトをしながら、自分のやりたい事を探していました。切り絵と出会ったのは大学時代にデザインの勉強中に自分の絵を描かなくてはいけなくて、大学図書館の本と本の間紛れていた切り絵の技法の本の切れっ端を見つけ始めたのです。その前にはエアブラシなどで制作していたのですが切り絵の方が面白くて、未だに飽きずに続いています。30歳ぐらいで新宿ペペのギャラリーせ・ら〜るで初めての2人展をやりました。その後、個展を続けながら、同時にイラストレーターとして仕事もやっていました。

糸井: 現代童画会との出会いはどこでしたか？

佐藤: 30歳後半ばで体を壊しあまり絵を描けない時期があって、自分の絵って通用するのかしら、と思っている時に36回展の募集に出会いました。募集広告の泉耀子さんの絵に感銘し出品してみた。



糸井: 丁度、その年に都美術館が使えず上野の森美術館で開催、一般は確か10号までの小品の出品の時でしたね。

佐藤: ちょうど良かったのです。締め切り1週間前に知りそれから手元にあったA3の絵を額装して持ち込みました。その時に新人賞を受賞しました。

糸井: 佐藤さんはその時から破竹の勢いで進んでいます。次の年に会友推挙・3年目に上野の森美術館賞・会友作家賞・会員推挙・会員佳作賞・坂出市長賞・文部科学大臣賞・会員作家賞・現代童画大賞・委員推挙と立派な賞歴となっています。会でも初めての事だと思います。

佐藤: 現代童画会と仕事を並列して来られたことに感謝しています。

糸井: 佐藤さんが独学で切り絵をされていると聞いています。会に対して思うことはありますか？

佐藤: はい、ずっと独学で先生も仲間もない中で制作してきました。現童に参加して「絵を描く人達」に出会

えて楽しいです。いろいろな表現方法にも影響されています。実は数学がもっとできていたら美大を受けていなかったし、人生が変わっていただろうと思う。歴史考古学が好きな自分もいるのです。奈良まで正倉院展を見に行きます。仏像の造形の美しさや発想に魅了されます。私を絵の世界へ導いたのは法隆寺の飛天です。今は、現代童画会に入って発表できること、さ

らに大きな作品に取り組みしていける事を嬉しく思っています。大作を描くのがすごく楽しくてトキメクのです！

佐藤美絵さんはイラストレーターとしての切り絵も制作されていますが、現代童画会での評価が会の標榜している「純粋な心の絵画」を有している証としての賞歴となっていると思います。これからも実力を活かしその感性を伸ばしてもらいたいと同時に後輩達に良き相談相手となって欲しいと考えます。

(2022/5/2 記・糸井邦夫／写真・天野利恵)





## 「日々新生・日々創造」再び

常任委員 有賀 忍

絵を描いて50年。「日々新生・日々創造」を座右の銘として制作してきた。ところが昨年暮れのクリスマス個展会期中に顔面が带状疱疹になり絵画活動は休止。鎮痛・鎮静剤を飲み、抗ウイルス軟膏塗布、夜も昼もおとなしく寝ていた。額から目にかけての爛れはなんとか治ったものの、額と側頭部に神経麻痺が残った。泣きっ面に蜂というか、左肩も激しく痛み出した。整形外科に見てもらった結果、烏口突起の異常。整体リハビリ通りの身となった。テニスも止めざるを得ない。クラブに退会届けを出した時は情けなさで涙がこぼれた。

相模女子大学と江戸川大学の子ども教育関係学科の立ち上げから参画、合わせて12年大学に通ったが人生の残り時間を考えて退任を決意した矢先だった。さあこれからは、全て己の時間！制作欲求満々であった。それなのに、嗚呼この様だ。

悲運は続く。我がアトリエのある鳩山はTVのテロップにも度々名が流れた高気温の地。38度は序の口、今夏日本最高の39.9度も記録した。その鳩山に線状降水帯が掛かり猛烈な雨に見舞われた。川は氾濫、交通止め。坂を下り切ったところにあるアトリエは冠水。小屋は泥で埋まり、土間は湿気でカビだらけ。

アトリエの主は病み、画室は荒れ、絵一筋の人生危うし。当たり前だった“制作思うまま”は休止せざるを得なかった。これも天の配剤か。

それでも仕事を再開した。快癒には程遠いが愚痴からは何も生まれまいだろうと。待っていてくれた出版社や、有賀の絵を熱心に見続けてくださる方々が力になった。久しぶりに板絵で絵本を作ろう。「こんなこいるかな」の新たな企画も楽しみだ。板絵制作は勿論のこと！。

不肖有賀「日々新生・日々創造」の看板は下さない。



瑞兆門出 ©SHINOBU ARIGA

### ●2023年第49回現代童画展応募のてびき●

会期—11/10～16 搬入—未定（10月下旬） 会場—東京都美術館

- 作品の種類—油彩・日本画・アクリル・水彩・版画・はり絵・切り絵・染色画・CG等、額装された未発表作品に限る。
- 賞—現代童画大賞・文部科学大臣賞・東京都知事賞など
- 作品の大きさ—S100号まで
- 出品点数—制限なし。
- 出品料—3点まで10,000円。1点増すごとに2,000円追加。
- 現代童画展搬入—東京都美術館地下3階です。
- 地方出品者—牧野商会 ☎03-3832-7713に問い合わせ下さい。
- 出品規定の請求—200円相当の切手を同封の上〒113-0033 東京都文京区本郷4-5-10-402ライオンズマンション本郷 現代童画会事務局 ☎03-3816-5281迄。  
<http://www.gendoh.jp/>

第49回特別展示「だからアジア」常任委員 嵐柴 茂

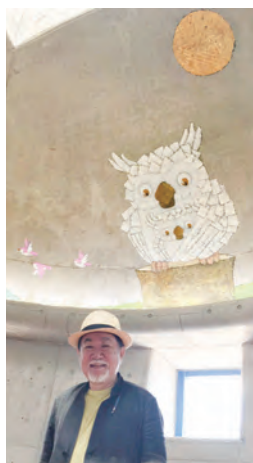


ギャラリートーク 11月13日(日) 15:00 13室

# Gallery Talk

## こどもたちを育む環境アート

常任委員 小野 孝一 ×



中央美術学園イラストレーション講師理事を20年務め  
株式会社 KUMA'S FACTORY 創業  
童画家として45年の経験と幼児環境に向け5,000点の原画を納品。  
自身のアトリエでもこどもたちのワークショップなど積極的に開催。

- 2005年～ メトロ児童絵画審査委員を務める。
- 2009年～ 現代童画会常任委員を務める。
- 2020年～ メトロ文化財団理事を務める。

公式 Instagram



WEB サイト



株式会社 KUMA'S FACTORY

代表取締役 小野 祐真

児童向けコンテンツのイラストレーション、アート、デザインなど。さまざまな制作や企画を通じて多くの先生方やこどもたちと関わり合いを重ねてきました。そんな実体験の中で感じたことは、テクノロジーの発展は加速している中でも、変わらない子どもたちの姿があるということ。泥を団子に見立てて遊んだり、折り紙やお絵かき、絵本や木のぼりなど、昔から続く遊びに子どもたちは今も親しんでいます。一方では、私たち大人も過度な情報社会からもう一度原点回帰し、実は身近なところにある遊びのきっかけがあることに目と耳を傾け、こどもと一緒に想像力を働かせ、関わり合い、そして育ち合いながら豊かな視点や発想を育む機会の創出は、今後益々大切のように思います。

